

福島第一原子力発電所 地下水バイパスの現状について

平成26年4月18日
東京電力株式会社

Gr1-1タンクへの貯留

- 4月9～14日にかけて、くみ上げ貯留した水（Gr1-1）について、現在、当社および第三者機関による詳細分析を実施中。
- また、一時貯留タンクGr1-1内の水について、「運用目標を満たしているか」の分析（運用目標分析）を行った結果、本日（4月18日）、当社および第三者機関の分析ともに運用目標未満であることを確認。

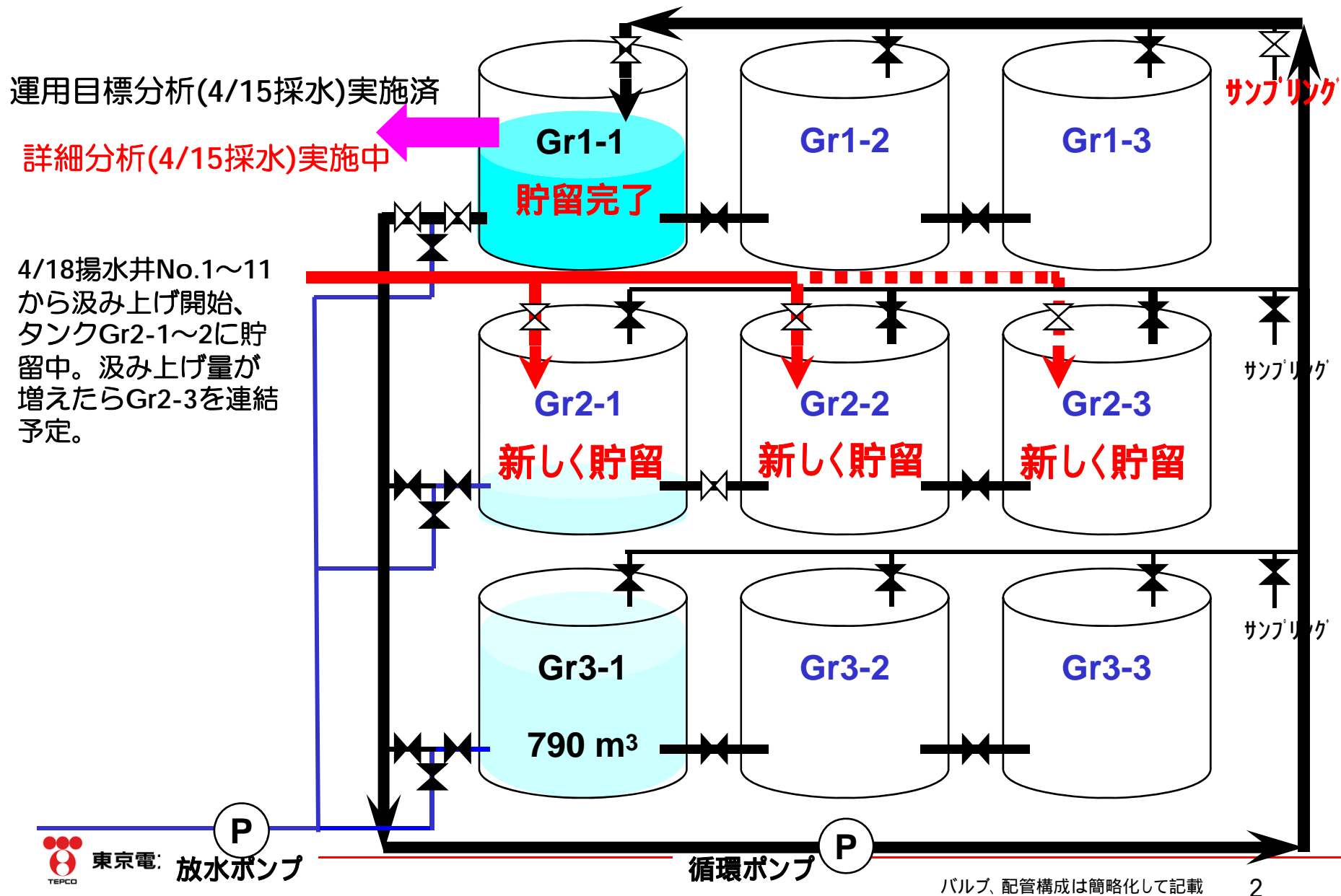
	Cs-134	Cs-137	全ベータ	H-3
当社	ND(0.63)	ND(0.56)	ND(4.4)	250 Bq/L
第三者機関 (日本分析センター)	ND(0.065)	ND(0.059)	ND(0.34)	240 Bq/L

Gr2(2-1～2-3)タンクへの貯留

NDは、検出限界値未満を表し、()内に検出限界値を示す。

- 週1回の定例モニタリング（4月15日採取）において、地下水バイパス揚水井No.12のトリチウム値が「1,600 Bq/L」検出。
- 本日（4月18日）再度、揚水井No.12の地下水を採取。一時貯留タンクの水質にどの程度影響を与えるかを評価し、「運用目標値を超えるような影響がない」との評価が得られれば、当該揚水井からのくみ上げを再開する予定。
- 揚水井No.1～11について、本日（4月18日）11時59分～12時23分にかけて順次くみ上げを再開し、一時貯留タンク（Gr2-1～2）に貯留中。

一時貯留タンクにおける貯留状況



(参考) 地下水バイパス水の管理方法

運用目標

■地下水バイパスの運用目標は、12本の全ての揚水井の水を集める一時貯留タンクでの数値で判断し、運用目標以上となる地下水の排水は行わない。

		セシウム 134	セシウム 137	全ベータ	トリチウム	告示濃度限度に 対する割合の和 (裕度)
運用目標		1 Bq/L	1 Bq/L	5 Bq/L	1,500 Bq/L	0.22
定例モニタリ ング	一時貯留 タンク	—	—	1回/10日 ND < 1 Bq/L	—	
		1回/月 詳細分析 (セシウム134・137, ストロンチウム90, トリチウム, 全アルファ, 全ベータ)				
	揚水井	—	—	全ベータ 1回/週 No.7,12 :ND < 5 Bq/L その他 :ND < 15 Bq/L	・1回/週	

※告示濃度限度

セシウム134: 60 Bq/L、セシウム137: 90 Bq/L、ストロンチウム90: 30 Bq/L、トリチウム: 60,000 Bq/L

WHOの飲料水水質ガイドライン

セシウム134: 10 Bq/L、セシウム137: 10 Bq/L、ストロンチウム90: 10 Bq/L、トリチウム: 10,000 Bq/L